

## ■なぜ今、芸術療法か？

平成17年度から、文部科学省特別教育研究経費を得て、「教育大学の特色・地域性を生かした芸術療法の総合的研究」が始まりました。

今、日本の社会では様々な「こころの問題」が起きています。うつ病や自殺、ひきこもり、不登校、青少年の非行などは、私たちの社会の基盤を危うくしかねない問題であり、早急な対応と解決が求められています。

しかし、科学や医療が格段に進歩した今日でも、心の病には効果的な治療法が少ないのが現状です。そんななか、今、芸術療法 (art therapy) に熱い視線が注がれています。「音楽療法」については、ご存じの方も多いでしょう。じつは、音楽療法は、芸術療法に含まれる一つの分野なのです。実際、芸術療法



芸術療法 (美術)



芸術療法 (書道)



芸術療法 (音楽)

# 「教育大学の特色・地域性を生かした 芸術療法の総合的研究」 プロジェクトについて

を構成する領域は広く、およそ「芸術」と呼ばれるものは、すべて「療法」として利用できる可能性を秘めています。そして、ここが重要なのですが、「こころの病」の予防（ストレス・マネージメント）や治療には、芸術療法が有効だと考えられています。また、日本の社会は少子高齢化によって高齢者を中心とした医療費増加が避けられない状況ですが、芸術療法は従来行われて

きた医療に代わる、低コストの医療（代替療法）としても注目されています。

## ■研究プロジェクトの特色

このように期待されている芸術療法ですが、じつは医療や教育現場への応用は遅れているのです。その原因は、芸術療法についての科学的研究がほとんど行われなかったことにより、大学などの学術研究機関による積極的な研究の推進が求められています。

こうした状況にあって、本学は、全国に先駆けて音楽療法を取り入れた奈良市の「社会福祉協議会音楽療法推進室」と、長年、音楽療法の効果について共同研究を行っています。また音楽療法関連の授業も開設しており、地域の福祉施設において音楽療法の実習・実践活動を実施してきました。さらに、書道教育や美術教育において、他大学にはない極めてユニークな歴史や、人物の資源を持っています。このプロジェクトは、そうした本学の伝統と特色を生かしつつ、芸術療法の基礎分野と臨床分野が連携協力して実施する我が国初の総合的研究です。

プロジェクトでは、大学、地元自治体、地域福祉施設との連携・協力を通じて、音楽・書道・美術における創作や鑑賞活動を様々な角度から調べ、芸術療法の効果を科学的に検証し、芸術療法モデルを提言することを目指しています。そして、その少子高齢化時代のストレスマネージメントや、QOL(生活の質)の向上、青少年の「こころの教育」への応用など、研究成果を積極的に社会に還元していきたいと考えています。

音楽教育講座・助教授

福井

一